府中市生涯学習審議会（平成２９年度第２回）会議録

１　日　　時　　平成２９年６月２９日（木）午後３時～５時
２　場　　所　　府中駅北第２庁舎５階　会議室
３　出　席　者（敬称略）
（１）委員１３名
岩久保早苗委員、大谷久知委員、奥野英城委員、木内直美委員、岸定雄委員、北島章雄委員、佐野洋委員、関口美礼委員、相馬一平委員、寺谷弘壬委員、中村洋子委員、西原珠四委員、三宅昭委員
※中西裕子委員、長畑誠委員は欠席。
（２）職員６名
五味田文化スポーツ部長、古田文化生涯学習課長、平野文化生涯学習課長補佐、宮﨑生涯学習係長、山崎事務職員、諫山事務職員

４　報告事項
（１）配布資料の確認
・資料１「第１回会議録（案）」
・資料２「社会教育委員の主な活動」
・資料３「第１次府中市生涯学習推進計画　概要」
・資料４「第２次府中市生涯学習推進計画　概要」
・資料５「第２次府中市生涯学習推進計画における　重点施策の成果」
・資料６「第２次府中市生涯学習推進計画　分野別　推進事業実施状況」
・資料７「H２８．５月　中央教育審議会　答申　抜粋」
・資料８「第９期　東京都生涯学習審議会建議に　ついて(概要版)」

（２）前回議事録の確認
各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

（以降の進行は会長）

９　審議事項
（１）社会教育委員の選出について（８名以内）

（会長）　前回４月２６日の第１回府中市生涯学習審議会において、社会教育委員を８名決めることができなかったので本日決定したい。最初に、社会教育委員の選出について事務局より説明をお願いする。

（事務局）　選出に入る前に、前回ご質問のあった社会教育委員の職務・位置づけ等について、ご説明させていただく。前回もお話させていただいたが、従来、生涯学習推進協議会、社会教育委員の会議、公民館運営審議会の３つの会議がそれぞれに審議をしており、内容が重複する部分が多いことや、重複して委員となっている方もいらっしゃったため、平成１５年４月に３つの会議を統合して生涯学習審議会とした。しかし、社会教育委員については、東京都市町村社会教育委員連絡協議会での研修等に参加しており、近隣市と意見交換を行ったり、課題の解決に向けて、いろいろな事例検討を行ったりする機会があるため、「府中市生涯学習審議会条例」で、生涯学習審議会に分科会を設置し、分科会委員を社会教育委員とすると定めた。人数については、主に社会教育に関する選出分野の生涯学習審議会委員さんから選出した形式をとっており、分科会という形なので、全員ではなく約半数の８人とさせていただいている。

東京都市町村社会教育委員連絡協議会は、東京都の２６市と瑞穂町、日の出町、奥多摩町の３つの町で組織され、社会教育の振興を図り、会員相互の連携を密にし、資質の向上を図ることを目的に設立され、各研修等を実施している。会長市等の役員は、市町制施行順でまわってくる。その大元となるのが、全国社会教育委員連合で、全国の社会教育委員を対象とした全国大会や、地区別の社会教育委員を対象とした、東京では関東甲信越静大会となるが、そうした全国や地域ごとに研修を行っている。

本市での具体的な社会教育委員の活動について、資料２にまとめた。こちらは、平成２９年度と３０年度の社会教育委員の予定を記載している。会長に出席していただく会議は多いが、他の社会教育委員の皆様については、今年度は４月の定期総会は終了しており、会長に出席していただいたので、今後は、１０月の第５ブロック研修会と１２月の交流大会・全体研修会となる。第５ブロックは、府中市・三鷹市・武蔵野市・調布市・小金井市・狛江市で構成されている。これらの研修の中でご都合がつくものにご参加いただきたい。ただし、平成３０

年度は第５ブロックの幹事市となっており、その際は府中市での開催となるので、当日の進行等は、社会教育委員以外の審議会委員の皆様にもご協力いただきたい。具体的なことは、その都度ご相談させていただく。

（会長）　それでは、社会教育委員の選出に入りたいと思うが、選出にあたり事務局より説明をお願いする。

（事務局）　前回、寺谷会長、三宅副会長の２名について、社会教育委員をお願いすることが決定したが、定員が８名以内のため、本日は、あと６名の方の選出をお願いしたい。先日の会議の際、関口委員さんから、社会教育委員をお引き受けいただけるとお声をいただいている。また、後日、木内委員さん、中村委員さんからも、社会教育委員をお引き受けいただけるとのお声をいただいているがいかがか。

（会長）３名の方、いかがか。

（委員）他にやる方がいなければやらせていただきたい。

（会長）　では、３名の方にお願いさせていただく。これで５名になったので、残り３名を決めたいと思う。社会教育委員になると、市町村のいろいろな施設を見せてもらえることもあり、非常に示唆に富むサジェスチョンを与えられることがある。講演も良い人を呼んでおり、大変教養になるので、どなたかやっていただける方はいらっしゃらないか。

（委員）　一応、社会教育に関係している委員として参加しなければいけないかなと思っている。

（会長）では、お願いしたいと思う。あと２名だが、どなたかいらっしゃらないか。

（委員）　いろいろな研修があることを聞いたうえで参加したいという方がいれば、そちらの方を優先していただきたいと思うが、どうしても８名集まらないようであればやらせていただく。ただ、予定表にある１２月２日はすでにスポーツ団体の式典が組まれているので参加できない。

（会長）　良い経験になると思うが、他にどなたかいらっしゃらないか。会場は近隣の市町村が多いので行きやすいし、懇親会があっても出なくても大丈夫である。

（委員）特にいなければ、私がやらせていただきたい。

（会長）それでは、お願いしたいと思う。あと１人だがいかがか。

（委員）ぜひ公募の委員の方にお願いしたいと思う。

（会長）西原委員いかがか。

（委員）私でよければお願いしたい。

（会長）これで８名となったので、事務局に確認をお願いする。

（事務局）　社会教育委員は、寺谷会長、三宅副会長、関口委員、木内委員、中村委員、奥野委員、岸委員、西原委員の８名にお願いすることとなった。

（会長）それでは、この審議事項は以上で終了する。

（２）答申の作成について

（会長）　続いて、審議事項(2)の答申の作成について事務局より説明をお願いする。

（事務局）　それでは、答申の作成について説明をさせていただく。前回、教育長から諮問が伝達され、「平成３１年度を初年度とする第３次府中市生涯学習推進計画に関する基本方針及び計画素案を策定すること」という諮問事項で、答申を作成していただくことになった。そこで、協議に入っていただく前に、本市の生涯学習推進計画の流れについて、少し説明をさせていただきたい。

資料３は「第１次府中市生涯学習推進計画概要」で、左頁に生涯学習推進計画の目的、位置づけ、期間を記載してある。本市では、府中市総合計画の「人と環境にやさしい活力にみちたまち」の実現を目指して、平成１１年度に、１０年間の計画期間で第１次府中市生涯学習推進計画「市民カレッジの展開にむけて」を策定した。時代背景としては、世の中が豊かになっていく中で、物の豊かさとともに「こころの豊かさ」に対する意識が高まり、自己実現や生きがい、生活の向上などを求める人々の学習意欲が高まってきた。そこで、文化、スポーツ、趣味、レクリエーション、ボランティアなど様々な活動の中で学び楽しむことが求められた。

右頁に、次のとおり計画の５つの基本目標が記載してある。

「１　あらゆるライフステージを通じた学習機会と場の拡充」

「２　現代的課題に対応した学習活動への支援」

「３　学んだことを地域で生かすことができるシステムの整備」

「４　情報提供・相談体制の拡充」

「５　推進体制の整備」

続いて、裏面に記載してあるのは、左頁に施策の体系図、右頁に重点施策となっている。具体的な重点施策は次のとおりである。

「１　カレッジ・１００単位（学習機会の拡充）」

「２　カレッジ・リーダーバンク（学習リーダーの育成と活用）」
「３　カレッジ・ワークショップ（学習の場、活動の場の確保）」
「４　カレッジ・インフォメーション（学習情報の収集・提供）」
図のとおり、市全体を大学に見立てて、生涯学習の推進を目指した。
資料４は「第２次府中市生涯学習推進計画概要」で、左頁に生涯学習推進計画の目的、位置づけ、期間を記載してある。平成２０年度末で、策定から１０年を経過し、当初の計画期間を終えることや、その間の急激な社会環境の変化や市民の生涯学習意識の変化などに伴い、また平成１５年度より設置された「府中市生涯学習審議会」からの答申・提言を受け、計画の見直しを図り、平成２１年度から３０年度までの１０年間の期間で、「第２次府中市生涯学習推進計画」を策定した。
第２次計画では目的にあるとおり、第５次府中市総合計画の「心ふれあう　緑ゆたかな　住みよいまち」の実現をめざし、さらに幅広い世代（ジュニア・ミドル・シニアの各世代）の市民が、あらゆるライフステージでそれぞれの目的、ニーズに応じて自由に学習の機会や交流の場を選択しながら学ぶことができ、また、これまでの「学ぶ」だけの姿勢から、一人ひとりが学習した内容を地域に生かす「学び返し」を実践し、市が啓発・支援することで、更なる市民の学習意欲の向上が図れるよう、生涯学習に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定した。
右頁には基本理念を記載してあり、審議会の提言で生まれたキーワードである「学び返し」を根底に、「学び返しを通した地域教育力の向上」と掲げた。
続いて裏面の左頁には、次のとおり計画の５つの基本目標が記載してある。
「１　学んだことを地域で生かすー「学び返し」の支援とネットワークの整備」
「２　ジュニア・ミドル・シニア世代を相互につなぐ学習機会と居場所づくり」
「３　地域教育力を高めるための新しい学習活動の支援」
「４　「学び」・「学び返し」を迅速・適切につなぐ情報提供・相談体制の拡充」
「５　推進体制の整備」
右頁が、それを受けた体系図となっている。
続いて、２枚目の左頁は、次のとおり重点施策を記載している。
「１　ワークショップ（発表・活動・交流の場）の充実」
「２　生涯学習サポート（学習活動の支援・相談・情報提供）の創設

と推進」

「３　地域の生涯学習の担い手（生涯学習ファシリテーター）の育成と活用」

重点施策の成果についてまとめたものが、資料５である。

まず、「１　ワークショップの充実」については、１，０００団体以上ある社会教育関係団体への活動の場等の支援や、生涯学習フェスティバルでの各種発表など、様々な活動の場を設けてきた。生涯学習フェスティバルの実績は表のとおりで、一定数の活動がある。

続いて、２頁の「２　生涯学習サポートの創設と推進」については、「学び返し」の一環として、様々な知識や能力、経験を持つ方を「生涯学習サポーター」として登録し、講師派遣を行ってきた。登録者数及び派遣依頼数は、表のとおりである。サポーター登録者数の減少理由は、登録者の高年齢化や、派遣依頼が少ないことなどが考えられる。今後、サポーターの活用のさらなる周知等が必要となってくる。

次に、３頁の「地域の生涯学習の担い手（生涯学習ファシリテーター）の育成と活用」については、明治大学との連携講座として、ファシリテーター養成講座を実施している。養成講座修了者数は、表のとおりで減少傾向にある。理由としては、初級から上級まで終了するのに３年かかっていたことや、規定回数の受講が必要なことから、途中で断念する人がいたことなどが考えられる。それを受けて、今年度からは、１年で上級終了まで可能な体制に変更した。ただし、課題としては、ファシリテーター養成講座修了後の、具体的な支援策や期待される役割が明確でないことなどがあげられる。今後の検討事項の１つになると思われる。

続いて、資料６は、第２次府中市生涯学習推進計画の分野別関連事業の実施状況をまとめたもので、継続事業が２３５事業、廃止事業が１１事業、見直し事業が１事業、統合事業・中断事業が２事業ずつとなっている。こちらは、近年の実施状況をまとめたもので分量が多いため、皆様のお時間があるときにお目通しいただき、今後の資料としていただければと思う。

次に、国と都の動向についてお話させていただく。資料７は、国の中央教育審議会の答申を抜粋したものである。赤い枠の中にあるとおり、地域の課題解決等に取り組む人材の育成やそのネットワークの構築や、生涯を通じた学習機会を充実するとともに、学習した成果が適切に評価・活用される社会が求められている。また、「「学び」と「活動」の循環の」形成に向けて、「学び」の場の整備・充実だけでなく、「学び」と「活動」の橋渡しということで、学習者・地域活動学習と活動を効果的

につなぎ、それらの活性化を図るということがあげられている。これは、本市の課題とも重なる部分がある。裏面は、答申の元になっている第２期教育振興基本計画の実施期間における具体的方策で、後ほどご覧いただきたいと思う。

続いて、資料８は、東京都生涯学習審議会の建議の概要版である。東京都の第５期答申で目指した「地域教育プラットフォーム構想」、これは主に子どもの育成に焦点化したものだが、一定のエリアにおいて、学校・家庭・地域の協働を目指す中間支援のしくみづくりである。その新たな展開を目指して、地域・社会の教育力の向上を目指し、地域教育支援人材を養成するというものである。

国も都も、ともに地域間の連携や、地域の人材を育成するということをうたっており、本市としても、目指してきているところである。

以上、本市の生涯学習推進計画の流れと国・都の近況についてお話させていただいた。

そして、平成３１年度末で計画期間の１０年が終了するため、ここで、「平成３１年度を初年度とする第３次府中市生涯学習推進計画に関する基本方針及び計画素案の策定」ということで、これから答申作成に向けてご審議いただくようお願いする。

（会長）　この１０年間で生涯学習審議会も内容が大きく変わってきた。初めは高齢者問題が多かったが、だんだんと若者・学校・家庭教育の問題が入ってきた。前回は、家庭教育と地域の教育の在り方と社会教育がどのように学校教育に関わりあうことができるかという諮問を受けて答申を行った。今回いただいた諮問は、平成３１年度を初年度とする第３次府中市生涯学習推進計画に関する基本方針及び計画素案を策定することである。まだ時間は十分あるので、それまで審議会でいろいろなことをディスカッションして更に進めていきたいと思う。何か質問や疑問などはないか。今日は、私たち全員の共通認識を拡げるために時間を使いたいと思っている。そして、これまでやってこられた方はお答えくださったり、批判してくださったりして構わない。

（委員）　今までの歴史について、簡潔に事務局から説明があったので、非常にわかりやすかったと思う。私が理解する限り、第１次の１０年の計画のキーワードは「カレッジ」、第２次のキーワードは「学び返し」だと思う。これらを踏まえて、第３次はどういうキーワードで考えていくのかが大事である。もう１つは、こういう流れの中で府中市の生涯学習に対する体制がかなり変わってきていると思う。第１次は教育委員会の管轄下で策定されたと理解している。それから市長部局に移っ

て、いろいろな組織改正があって現在に至っていると思うので、どこかで一度説明していただいた方が良いと思う。

（会長）　教育委員長から教育長と名前が変わったように、教育長及び教育委員会の仕事も微妙に変わってきたと思う。その諮問を受けて、生涯学習審議会のテーマも変わってきた。事務局の方から簡単に説明をお願いする。

（事務局）　質問の組織というところだが、おっしゃるとおり、以前は教育委員会事務局に社会教育課があり、その後時代とともに生涯学習課に変わるなど時代に合わせて名称が変わってきている。その時代の背景の中で、社会教育分野・学校分野に分かれた。そういったところで、教育委員会事務局から市長部局に移行した背景がある。ここで文化スポーツ部ということで位置付けをしてここまで来た形となる。さらに時代の背景を考慮して、直近で言うと、昨年度までが文化スポーツ部の中で皆様が関わりのある生涯学習スポーツ課は、２０１９年ラグビーワールドカップ及び２０２０年オリンピック・パラリンピックがあるので、４月１日からスポーツ部門についてはスポーツ振興課となった。文化部門については、文化振興課と統合して文化生涯学習課となった。そういった中で１次、２次については学習部門の変化など時代の背景がある。３次については、本日資料を配布させていただいたが、いろいろな時代の流れの中でこれらの資料を参考にしていただきながら皆様からご意見をいただければと思う。

（会長）　いかがか。奥野委員はどういった印象をお持ちか。

（委員）　非常に時代が変わっているので、この大きな変化を前提にして、何が課題かというのを審議会で議論すべきだと思う。例えば、第１次で計画した重点施策の市民カレッジは、今では有名無実となっていると思う。また、「学び返し」という言葉については私自身、あまり馴染めなかった。市民の皆さんは「学び返し」という言葉をどう感じているのか。委員の皆さんはどうお考えかわからないが、私の印象としては非常に古典的で今の時代にあっていないのではないかと思うので、その辺も議論できたらと思う。

（委員）　過去の生涯学習推進計画、答申を全部読ませていただいた。率直なところ、内容としては非常によくやっているという印象である。平成３１年から１０年間なので、少なくとも２０年は先を見据えて世の中の変化や生活環境の変化を十分考慮する必要があると考える。私が感じたこと

を３点ほど指摘したいと思う。

１つ目は、今までの考え方はこの豊かな時代にいかに充実した人生を送るかが基本にあると思う。しかし、アベノミクスなどでお金をたくさん使って景気を維持しようとしているが、実際の市民の生活というのは、ここ１５年くらいで可処分所得が８０万くらい減っているわけである。世界から見ても日本人は自分が豊かだと思っていても、実際は豊かではないと私は感じている。私は行ったことがない国はないぐらい世界中を見ているが、日本は先進国と比べると豊かではない。生活保護の対象となる人たちが急激に増えていて、今や全国で１３０万人くらいいると言われている。しかし実際は、生活保護を受けるレベルだが我慢している人が今現在、高齢者の２割くらいいる。これが急激にこれから増えていくことになる。なぜならば、給与は増えず、企業はグローバル化の時代の中で会社を維持するために人件費削減に走っている。だから、政府がいくら同一労働同一賃金だと言っても実現するわけがない。派遣社員は３割から４割ぐらいは当たり前となっている。その人達の生涯給料は、正社員の人の４分の１か５分の１である。そういう中で、これからは貧しい人たちが急激に増えてくるという時代に直面しているという事実がある。

２つ目は、日本は予想もつかない急激な少子高齢化に入っている。昔東京オリンピックのあった人口１億人の頃は、高齢者は７％だったが、今は２７％くらいになっている。これが、あと３０年で人口１億人に減少した時、高齢者は４０％になってしまう。４０％が高齢者で、２０％が子どもや学生、残りの４０％が働いて日本という国を支えなければいけない。その就業世代の４０％の中には、子育て中の人もいればうつ病などで仕事ができない人もいると考えると、本当に働いている人は３０％くらいのものである。つまり、３０％の人で支えていけるはずがない。これからは、女性と高齢者が社会の一員として役割を果たしていく社会でないと日本は成り立たなくなっていくことが目に見えている。高齢者をいかに社会の一員として活躍できるように生涯学習で支えていくかが重要な課題になっていくと考える。そうしないと日本は潰れる。そういう時代に来ている。ところが今は、７％くらいの人しか「学び返し」を真面目に取り組んでいない。みんな二の足を踏んでいる人が多い。そういう人たちが社会の一員として自分なりの役割を果たすことは至難の業だと思う。

そこで私が常々思っている大切なことは３つ目の問題の高齢者の意識改革だと考える。これは、現役を卒業した時に社会の一員としてどう生きていくのかという感覚である。これについては、日本は先進国の中でとても遅れている。要するに、社会の一員としてどうすべきか考えてもいない人が多い。だいぶ日本でもボランティアをする人が増えてはいるが、そういうことを率先して取り組んでいる人は１割とか２割しかいない。そういう意識が低い人たちの中で、学び返しにくらいつく人は少ない。そういう人たちに一歩を踏み出してもらうために、今まで苦労していろんなことをやっているが、なかなかうまくいかない。この一番の原因は、日本人の意識の低さがあると思う。その意識をどのように変えるのかは、現役の時代からのきちんとした教育・指導、市でいうとセミナーなどの重要性を認識させる啓蒙活動等をもっと徹底して意識を変える必要があると思う。そうしないと行政が必死になってやっても、現状では時間つぶしや仲良しクラブ、体力維持のスポーツ関係のみで、参加する動機がお粗末である。その辺をどうやって生涯学習の中でサポートしていくかが課題だと思う。これらを考えた第３次計画を皆さんにご検討いただきたいと思う。

（会長）　３つ目の高齢者をいかにボランティアや社会、特に地域に引き込むかというのは、１０年前からの大きな課題であった。年齢的にも団塊の世代をたくさん排出したこと、優れた人びとが地域とあまりコミュニケーションをとらずに会社中心であったということがある。市の予算を切り詰め、高齢者でボランティア的に動ける方を何らかの形で吸収して地域の活性化・教育の向上につなげていくかという意思は最初からあったと思う。それにも増してこの１０年間で学校教育の在り方や貧困家庭の問題、青少年の問題などいろいろな問題が起きて学校教育も学校だけではうまくいかない問題が起きてきた。そして、生涯学習審議会はもともと大変弱者的な存在だが、そこにも依頼が来て、どうやれば学校教育がもう少しうまくできるか、家庭教育の対してどういう風なサジェスチョンが生涯学習審議会でできるかという諮問が出たと思う。今おっしゃってくださったのはまさに、その辺を１０年、２０年、もしくはそれ以上かけて模索してきたものと思う。東京でオリンピックが行われた１９６４年くらいの勢いが、今の社会にはひょっとしてないかもしれないが、意識だけは少し出てきたのではないかという感じがする。審議会の答申について無駄なことはやっていない

という自負ではないが、納得しているところである。ただし、紙に書いた文章にする場合にはどうしても何か１つキャッチフレーズのような言葉を置いて引っ張っていかないと思われるので「市民カレッジ」があったわけである。しかし実態はあまりなく、地域の講演会はあまり活性化しないが、有名人が「美人になる方法」のような内容で行うとたくさんの人が集まるということで、大変矛盾したことだらけを私たちがやってきたというわけである。実際にこのメンバーを見ても、以前は６０歳以上の高齢者が審議会の委員だったが、今は現役でバリバリやっておられる方が参加してくださっている。それ故にお忙しいということで、時間の共通性をたくさんとろうとするのは難しいことにもなってきているが、今の話は大変良いサジェスチョンを与えていただいた。ありがとうございます。このような方向で審議をして、第３次はどういう風に協議の軸足を捉えて定義すべきか検討いただきたい。引き続き、どなたか何かあればお話しいただきたい。それに乗っ取って、私たちはディスカッションしたり審議したりして答申の形に変えていきたいと思う。それが府中市に対する貢献になるのではないかと自負している。

（委員）　私は２点ある。府中国際交流サロンで日本語教育をずっとやっているが、このところ高齢者のボランティアがとても増えてきている。それは､団塊の世代の方が入ってきたことによる｡非常にやる気があり、高学歴で優秀な方が多い。高齢者があまり貢献したくないというわけではなく、役に立ちたいと思っている人はたくさんいる。その人たちをうまく引き出せてないのではないかと思う。

もう１つは、過去の答申を読んだが、２つ欠落していることがあると思った。１つ目は「楽しい」ということである。読んでみてもあまり楽しそうではない。活動自体が永続的ではなくダイナミックではないので下火になってしまうと思う。もっと生涯教育は学び豊かということはあるが、勉強、勉強という感じではなく、参加して楽しいということが一番のキーワードになると思う。世界的に見てどんな組織が活性化しているか調べたことがあるが、スポーツのような会社が一番活性化している。スポーツをやっている楽しさがあるような活動をぜひ織り込むといいと思う。過去もいろいろと大変だったと思うが、私はそう思う。

（会長）　英語のSchoolというのは遊びという意味だが、日本人は真面目なの

で学びと言ったら教え込むという感じにとってしまっている。スコラ哲学は遊びの哲学である。広い意味で言えば、遊びを中心に活性化したいと思う。誰でも単に習う勉強なんて非常に嫌なもので、外国語でも試験のために覚えるのは嫌だと思うだろうが、国際交流とか外国人と話すためだと非常に面白さがあるので、おっしゃる通りだと思う。いかに遊びを作るかが難しいことであり、これから是非考えていきたい。そういうことを重点的に地域で行うべきである。調布市は子どもたちを引率していろいろなところで物を作ったり、遠足のような昔のアメリカでいうＹＭＣＡ、ＹＷＣＡのような活動をしたりして成功しているのではないかという印象を受ける。確かにそういうのが必要かもしれない。

（委員）　建設的なお話になっているところ戻ってしまうが、先ほど事務局から説明をいただいた組織の中で、所管が教育委員会から市長部局に移ったということだが、答申は教育長からで少し違和感がある。それから先ほど配布された資料で、事業の廃止・見直しなどについては、結論は行政が決められたと思うが、これについては委員会の中で見直しの方向のたたき台があったのか。説明の中でわからなかったので教えていただきたい。

（会長）　前々回の答申の時に、今までやったことがどれくらい実現したのか、どこが欠落しているのかを検討して文章にした。今回も事務局が綿密に検討していただいて、非常に詳細な結果があるが、今日は時間があまりないので簡単に説明していただいた。事務局から簡単に補足をお願いしたい。

（事務局）　こちらについては、各課で取り組んでいる生涯学習に関係する事業について、毎年実施状況を調査しているものになる。これを直接この審議会で何かしていただくというわけではないが、こういう事業を行っているということで参考にしていただければと思う。量も多いので、ご覧いただいて、何か質問等あれば次回以降に対応させていただきたい。

（会長）　副会長もかなり審議されたと思うので、答申を行ったことについて、何ができなかったかなど少しご説明いただきたい。

（副会長）　審議はさせていただいたが、結局何ができなかったかというのは、行政がどの程度真剣に取り組んでそれをやろうとしたかの１点につきる。資金の問題等を考えた時に、答申をした中身というのは全部が成

果として出ているわけではない。その辺のところは、私から言わせると妥協の産物で、答申の中身を振興していただいているのかなと思う。答申の中にできているものとできていないものとあり、できていないものは持ち越して検討という形になると思う。私が気になっていることは、皆さんの発言の中にあった、外国と比較したときに日本の生活の中身と違っていることによって、日本で活動する中身と外国で活動する中身は当然違ってきている。その辺のところが資金的な問題で、ご経験された外国では政府が補助しているのか地域が補助しているのかどういう形なのか聞きたいと思う。そういう動きも含めて、大きな問題としてあるのではないかと思っている。だから、審議会の中身の答申についてはまだ続くということである。

（会長）　外国との大きな違いはお金だけではない。私もアメリカで５年間教えて、３年間大学院にいた。１９６６年から１９６８年にかけてフルブライド基金を受けたから、地方のいろいろなことに貢献しないといけないというので、折り紙の折り方などをアメリカの子どもたちに教会で教えたりした。ご存じのように、システムというのは非常によくできているので、地域貢献に関しては非常に良くできている。コンティニューイング・エデュケーションといって卒業した人あるいは中退した人もそこに来て一緒に食事をするレストランもあり、本を借りて良いというものもある。それがお金に関係してくるかはわからない。文化度はどちらが高いとは言えないが、もともとある文化度が違うという認識が強くあるので、今後ディスカッションして入れていきたいと思う。先ほど質問のあった所管の件について、事務局から説明をお願いする。

（事務局）　今回の諮問は教育長から出ており、皆さんの委嘱も教育長名でお願いしているが、これらは生涯学習審議会条例に基づいて動いている。こちらには、教育委員会がこの審議会を置くことになっている。一方で、組織が文化スポーツ部という市長部局の形となるので、そこのちぐはぐの部分をおっしゃったと思うが、文化スポーツ部は学習、スポーツ、美術館、図書館といった分野になるが、補助執行という形をとらせていただいている。これは平成２０年からこのような形になっているが、平成１９年に法の改正があり、より市民の生活に密着した市長部局でこういった事業を展開した方がより効果的であろうという考えのもとでそのようにしている。ただ、こういった大事な会議の諮問

や答申というのは引き続き教育長に権限があって、教育長からお願いをされるというようなところが一部残っているイメージとなる。根本的なところは、引き続き教育委員会というスタイルとなる。若干わかりにくいが、現在の府中市はそのような形をとらせていただいている。

（会長）では、先ほどのディスカッションの続きを行いたいと思う。

（委員）　子どもが５人おり、親は２人とも府中に住んでいる。普段どんな生活をしているのか見ている。そして、私は３年前に府中に引っ越してきたが、子どもがそれぞれ府中の小学校に通っている。府中に引っ越してきて良かったと思っているのは、お祭りが盛んなところである。お祭りを見ていて良いなと思ったのは、子どもと親、その親の三世代が１つのことに対して一緒に取り組めることが見ていて素晴らしいと思う。あえて言えば、お祭り以外の時はそういう場が少ない。今は学校で子どもを見つつ、親とも付き合っているが、一番安定しているのはおじいちゃん・おばあちゃんが学校に来る家族だったりする。そういう家族は子どもがのびのびと暮らしているのを見ていて感じる。三世代がそれぞれの役割を果たしながら、互いに交流するのが素晴らしいと思う。私自身、親が近くにいるというのがある。最近うちの従業員に３人目の子どもが生まれたが、おじいちゃんとおばあちゃんのサポートがないとやっていけないと言っている。それを見ながら思うのは、赤ちゃんを見ておじいちゃん・おばあちゃんは励まされるだろうし、親もおじいちゃん・おばあちゃんがいてくれて良かったと思っている。やはり、それぞれ与えられた役割があると思う。さっそく学び返しについてだが、現在一方通行的な形になっているなと思う。上から下、さらに下、そして戻ってくるという循環の流れではなく、ジュニアの世代からシニアの世代、あるいはシニアからミドルに行って、ミドルからシニアにという流れが大切ではないか。普通にいうところの近所付き合いではないが、与えられたら与えるという、言ってみれば１つの運動が起こるきっかけを市が与えると良いのではないか。最近、いろいろな大学と民間あるいは公的な機関が一緒にやりませんかという手紙が良く来るが、一緒に集まってお互いのことを知り合いながら、そこから何かを始めるきっかけにしてくださいという集まりがある。あまり行ったことはないが、行くとすごく活性化していて、お互いから何かをもらいたい、あるいは与えられるものがきっとあるのではないかという気持ちで行くわけである。自分が持っているものは

自分だけのものではなく、皆で共有することでそこに喜びがある。そして結果的には自分にとっても良いことになるという循環が生まれるきっかけを作る動きがあってもいいと思う。それが、いわゆる三代に渡って循環的な受けたり与えたりするきっかけを作るような流れを生み出せたら良いと思う。与えるだけだとその後は各自で頑張ってくださいという感じになってしまうので、与えた本人も自分に返ってくるわけではないので実感が湧かないということがある。おじいちゃん・おばあちゃんも社会に出て何かしたいが何をしたら良いかわからない、あるいは自分は必要とされていないのではないかと思っていて動けない部分があると思う。むしろ違う世代と触れ合うことで、自分にとってできることがあるのだと思える。周りの子どもたちと触れ合って、子どもたちの姿を見て自分にはこんなことができると思いつくかもしれない。そういうアイディアは、年は関係ないと思う。ただ、そうやっておじいちゃん・おばあちゃんでも思いついて新しいことを始められるような交流や違う世代が何を求めているか、自分にも与えられるかもしれないと知るきっかけを提供することが１つのキーになると思う。まずは、知ることから初めて、次はシステムや枠組みを作ることでもう少し活性化するのではないか。与える一方で帰ってこないのではなく、そこに循環が生まれるような流れにならないと継続的にはならないと思った。

（会長）　本人の生きがいにもなる。「学び返し」という言葉を最初にピックアップした時は、確かに高齢者から若い人にという意識はあった。府中の場合、祭りの屋台出しなどは高齢者が若い人に教えるので一方的だが、確かに逆の立場もあると思う。私の息子は３Ｄコンピューターの会社をやっているが、私は時々電話でコンピューターの使い方を聞いている。向こうがこちらのコンピューターを見えるらしく、来なくても教わっている。私は大学で４０年か５０年教えているので、腹が立つが、こればかりは教わらないとわからないので黙って聞いている。おっしゃる通り、教えたり教え返すのが「学び返し」という言葉で、高齢者が必ずしも若い人達を引っ張っていくという意味ではないと思う。相互にコミュニケーションし合い、特に学校教育だけではできなかったような問題を町ぐるみで作り上げていけば、それはそれで非常に大きな成果になると思う。そして、指摘してくださったように府中市は祭りが大変盛んである。友人からは、花火らしくない花火が朝か

ら打ち上げられているのがびっくりすると聞くので、祭りが非常にたくさんある所だなという意識はある。いい点を指摘してくださった。

（委員）　平たく言えば、三世代家族型社会である。子どもたちは何もしなくてもおじいちゃん･おばあちゃんに与えるものはあると思う。例えば、一緒に歌を歌ったり、一緒に将棋を指したり、カルタをしたり、その姿を見ることでおじいちゃん・おばあちゃんは力をもらうと思う。
そういう意味で子どもたちからシニアの世代やミドルの世代に与えられるものがあると思う。親として子どもを見ていて思うのは、子どもは何をやってもいいと思う。特別なことではなく、一生懸命やっている姿だったり、ちょっとした言葉をくれたりするだけで十分。そういう刺激を全ての世代で分かち合えたら良いと思う。

（委員）　生涯学習サポーターを登録して依頼できるシステムと生涯学習ファシリテーターを育成して、地域の「学び返し」を推進していく中で、ファシリテーターをつなぎ手として必要とされる側と提供する側を結ぶという仕組みをとても良いと思ったが、結局あまり動いていないということを知って、これをもっと活用した方が良いと考えている。もう１つは資料７にも出ているが、赤い枠で囲まれている２行目の「個人の『学習・活動履歴』の重要性が高まっている」とあるが、ポートフォリオのような個人が何をできるかというのをもっと明快にして告知すれば活用できると思う。４０代・５０代の働き盛りの頃に会社勤めをしていると、府中に住んでいると都心に出かけると思う。新宿や品川などで仕事をして、コンピューターや金融など得意分野、特技があると思う。しかし、その人が地域に戻った時に自分の居場所がない、何をして良いかわからない。地域の方でも、その人がどんな人かわからない、何をしてくれるのかわからない。例えば、コンピューターの専門的な知識をお持ちの方はその知識を地域で活用できるし、逆にビジネスの専門知識だけではなく、持病を持つお子さんの養育経験があるなど、いろいろなビジネス世界以外の個人のお持ちの取り柄をもっとオープンにするシステムがあれば、必要としている人に届けることを推進するような呼びかけを答申ですると良いと思った。

（会長）その呼びかけは誰がするのか。

（委員）　その呼びかけ自体も最初はやはり市の方で、ある程度形になっているシステム自体を地域に貢献したいという人達で人材バンク的なものを運営したら良いと思う。人材派遣の会社で人を育成した経験や採用

経験、就職相談を受けた経験など人の能力を引き出す仕事をしていた方達が、人材バンクのシステム作りや個人情報の扱いなど運営を考えることが望ましいと思う。もちろん地域の場合も、こういった人が必要だという情報を洗い出して、ヒアリングをする。この学校ではこういう人を必要としているというのを聞くのがファシリテーターの役割だと考えるので、ファシリテーターと人材バンク的なものが連動して活用すると理想だと思う。

（会長）　ファシリテーターは府中市がお金を出して育成をしているので、有効に利用しないと地域にとっても損だと思う。私は機会があるごとにファシリテーターをもう少し使えるようにしてほしいと言っているが、ファシリテーターに関しては副会長に発言していただければと思う。

（副会長）　私が今ファシリテーターとして感じているのは、実際にファシリテーターの教育を３年間かけて行っているが、なぜそれが繋がっていかないかというと、具体的な施策が出てこないからだと思う。誰かが中心になってそれを推進していく形にしないとその先の進展がない。何回か会合があったが、会合だけで終わってしまってその次の展開が無い。どうしてできないかというと、またやろうと言う人が誰もいない。これが問題だと思う。確かに皆さんがおっしゃっているのは素晴らしい意見だが、それを実現するためにどういう風にすれば良いのかという施策があまりない。ＮＰＯ法人を作るときはそれぞれの人たちが同じ方向に向かって努力して整列しているが、今のファシリテーターの段階ではそこまで行っていない。これは行政も手伝っていただかないと、人と物と金は必ず絡むので、うまくこれらを使いながら整列させる必要があると思う。これは、何年間も繋がっているので、ぜひとも実際に活動する形でやっていきたいなと思う。実際に教えてくれている先生に「教育するのは良いが実践するのは受講された方なので、実践しないと成果は出ない。」と言われて、確かにその通りだと思った。それをどのようにやっていくかが必要だと思う。

（委員）　せっかく「学び返し」というテーマが出ているので、「学び返し」を具体的に実行していかないともったいないと思う。ファシリテーターの方もそのために三年間も勉強されているのに、皆さんの才能が眠ったまま活用されないのは本当にもったいないと思う。

（副会長）　学習関係については目に見えないからできていないように思えるが、社会教育分野ではいろいろな形でやっている。今の段階では集合して、

あちこちでサロンを作って高齢者の役に立とうと努力をしている。それは、ファシリテーターがいるからこそ進んでいるので、少しずつ意識は芽生えていると思う。学習の中でどうやってそこに持っていくかは、まだわかっていないところである。

（会長）　一昨年の都市社連協の会合で、府中はファシリテーターをやっていると言ったところ、他の自治体の人から私たちも出られないかという声があった。しかし、府中市はお金を出しているので市に聞いてみてくださいと言葉を濁したが、今後半におっしゃった情報を持って非常にうまくやるのもよいが、リクルートがそれをやろうとして会社としてやって、しかも上場しようとしている。あまり情報を持って、それがうまくなりすぎたら会社以上になるので、ボランティアの人がそこまでのことをするは難しいのではないか。

（委員）　ファシリテーターについては、ずいぶん長い間講座が開かれているが、なかなか実践に結びつかないのが現在の悩みではないかと思う。私はボランティアという立場からいろいろな生涯学習に協力している。本当は、生涯学習フェスティバルは府中市の主催で生涯学習の成果を発表する場なので、この実行委員には、本来ならばファシリテーターの人に中心にやってほしいと思う。そういうオリエンテーションを市が中心にやってもらいたいと思う。そしてもう１つは、関口さんがたくさん良い意見をおっしゃったが、人材バンクとかは府中市の「市民協働」というもう１つのキーワードだと思っている。市民協働は生涯学習とは別になって既にスタートしてしまっている。従来は生涯学習の中に市民協働などが全て含まれていて、推進計画もそのようになっていたと思うが、今はそういう時代ではなくなっていると思う。むしろ、市民協働の部分は協働推進課に移したままで良いのではないかという気がしている。今度の生涯学習推進計画を立てる時にその辺の区分けというか、どの範囲を私たちの議論の対象にするのかを考えなければいけないのではないかと感じている。それと同時に家庭教育にもあったが、それは既に府中市では子育て支援課など新しい体制もできているので、そういう全体像の中で私たちが議論していくカテゴリーをある程度絞った方が良いと思う。

（委員）　全体の枠組みが欲しいということは重要だと思う。推進計画は第１次と第２次と策定され、第３次となるわけだが、府中市の子どもの比率と高齢者の比率などの人口動態推移の過去２０年があって、未来１

０年の予想もできると思う。岸委員からもあったように日本は豊かでなくなるし、現在もそうであるということがあったが、確かに可処分所得は十分に上がっていないし、ＧＤＰも３位とはいえ一人あたりにすればずっと下がる。そうすると、人口動態から比率を考えれば、生涯学習の取り組み事業は教育事業の中に位置づけられているとはいえ、健康年齢の向上させるものなども入れるようなかたちの方が、ボランティアと称して地域に出るきかっけになるのではないか。比較的長期の様々なデータを委員の皆で共有して、その中で、この組織が市の中でどのような位置づけにあるのかと併せて、できることを議論できたら良いと思う。

（会長）そのためのデータではないが、府中市政という分厚い本がある。その中に私たちの生涯学習審議会が一部載っているが、それは人口増加などの過去から今日までのいろいろなことを書いているが、量が膨大のため全部読むのは難しいと思う。そして、先ほどおっしゃった健康問題と高齢者問題は非常に重要かもしれない。この会議を最初に作ってくれたのは、高齢者の方が集まって好きなことを話して健康を維持するための会かと私は思ったことすらある。

他に発言したい方はいらっしゃるか。いなければ次の審議事項に行きたいと思う。

（３）今後の日程について

事務局より、次回の開催日の候補として８月２日（水）と８月９日（水）の午後３時からを提示した。会長が各委員に意見を求めたところ、出席委員はどちらでもかまわないとのことだったので、欠席委員に確認をして事務局で調整し、改めて連絡することとなった。

３　その他

・第５９回全国社会教育研究大会北海道大会について

事務局より、配布資料をもとに、日時、場所等の案内を行った。

以上